



令和4年 第四回 安全対策連絡協議会

令和4年12月9日
在エチオピア日本国大使館

参加者へのお願い

- マイク及びビデオの設定をオフにしてください。
- 発言希望の方は、「挙手ボタン」で合図をお願いします。
- 当地における停電、通信事情により、会議中にトラブルが発生する可能性があります。ご理解願います。

次 第

1. 大使挨拶

2. 国内情勢

(1) ティグライ情勢

(2) 国内治安情勢

3. 医療関連

(1) 新型コロナウイルス感染症について

(2) 感染症（マラリアについて）

(3) 日本・エチオピアの水際措置

4. 質疑応答



1. 大使挨拶



2. 国内情勢

(1) ティグライ情勢

(1) ティグライ情勢（本年9月以降）

- 9月11日 TPLFが政府と和平交渉を開始する準備がある旨発表
- 10月4日 ファキAUC委員長がエチオピア政府とTPLFに対して和平交渉の招待状を発出
- 10月14日 デメケ副首相がハマー米特使と会談
- 11月2日 「恒久的敵対行為停止による持続的和平合意」（プレトリア和平合意）
- 11月4日 林外務大臣がエチオピア政府とTPLFとの間の和平合意を歓迎する談話を発出
- 11月8日 ゲディオン法務相が人民代表議会に和平合意につき説明
- 11月12日 「恒久的敵対行為停止による持続的和平合意」に関する上級司令官宣言（ナイロビ共同宣言）
- 11月22日 「ティグライ州政府」（TPLF側）が和平合意支持を発表
- 11月23日 ブリンケン米國務長官がアビィ首相と電話会談を実施
- 11月25日 オバサンジョAUアフリカの角上級特使とヌクカ前南アフリカ副大統領らがメケレを訪問
- 12月1日 連邦政府及びTPLFの武装解除合同委員会が活動開始
グテーレス国連事務総長が当地訪問。アビィ首相と会談

〈今後の注目すべき動き〉

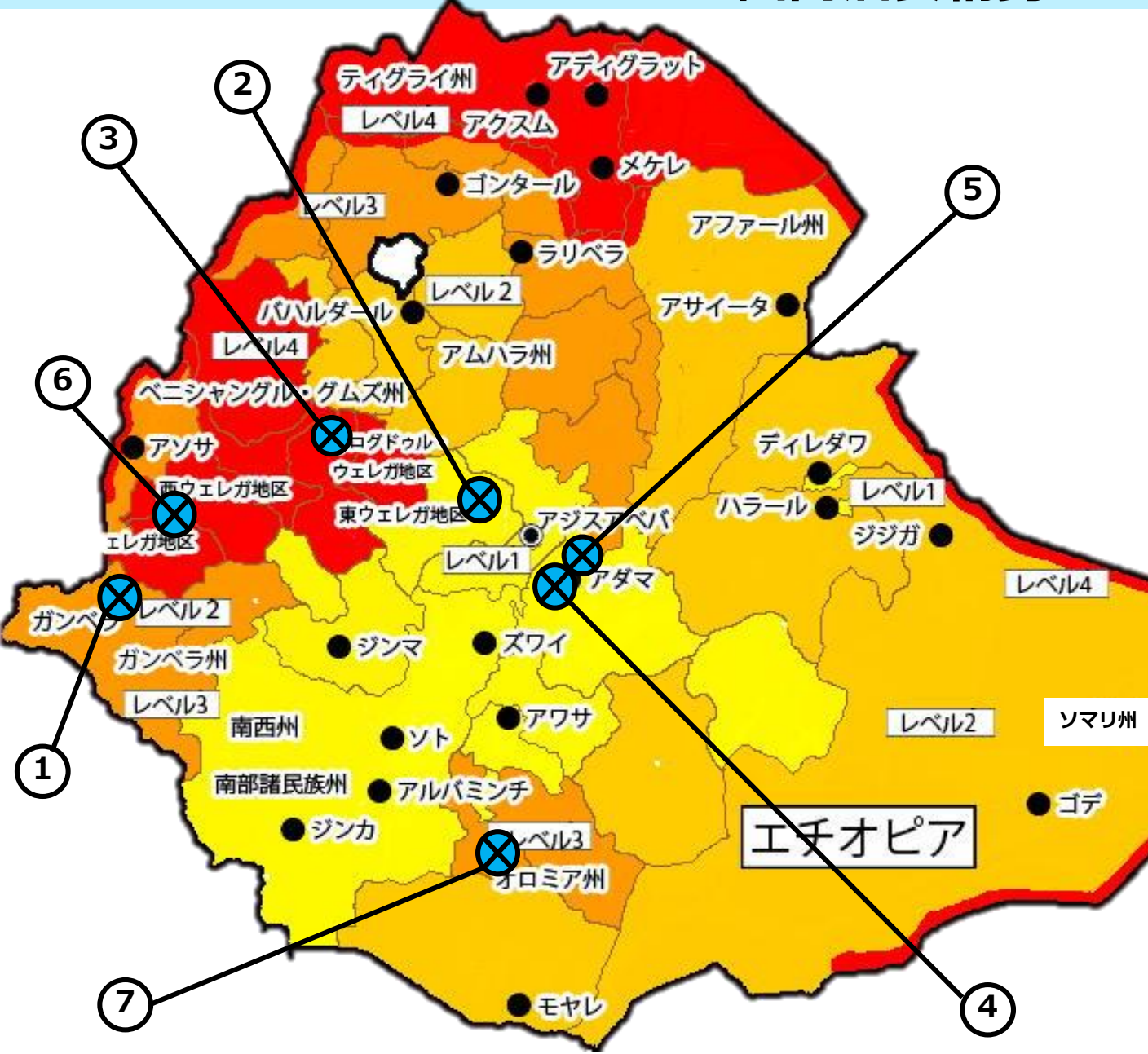
- ✓ 和平合意の履行：国防軍以外の軍勢力の撤退、武装解除、（合意履行の）監視検証チームの活動、戦闘被害地域への支援物資の供給など
- ✓ 国際社会の支援：IMFや世銀のプロジェクト、EUによる財政支援再開なるか



2. 国内情勢

(2) 国内治安情勢

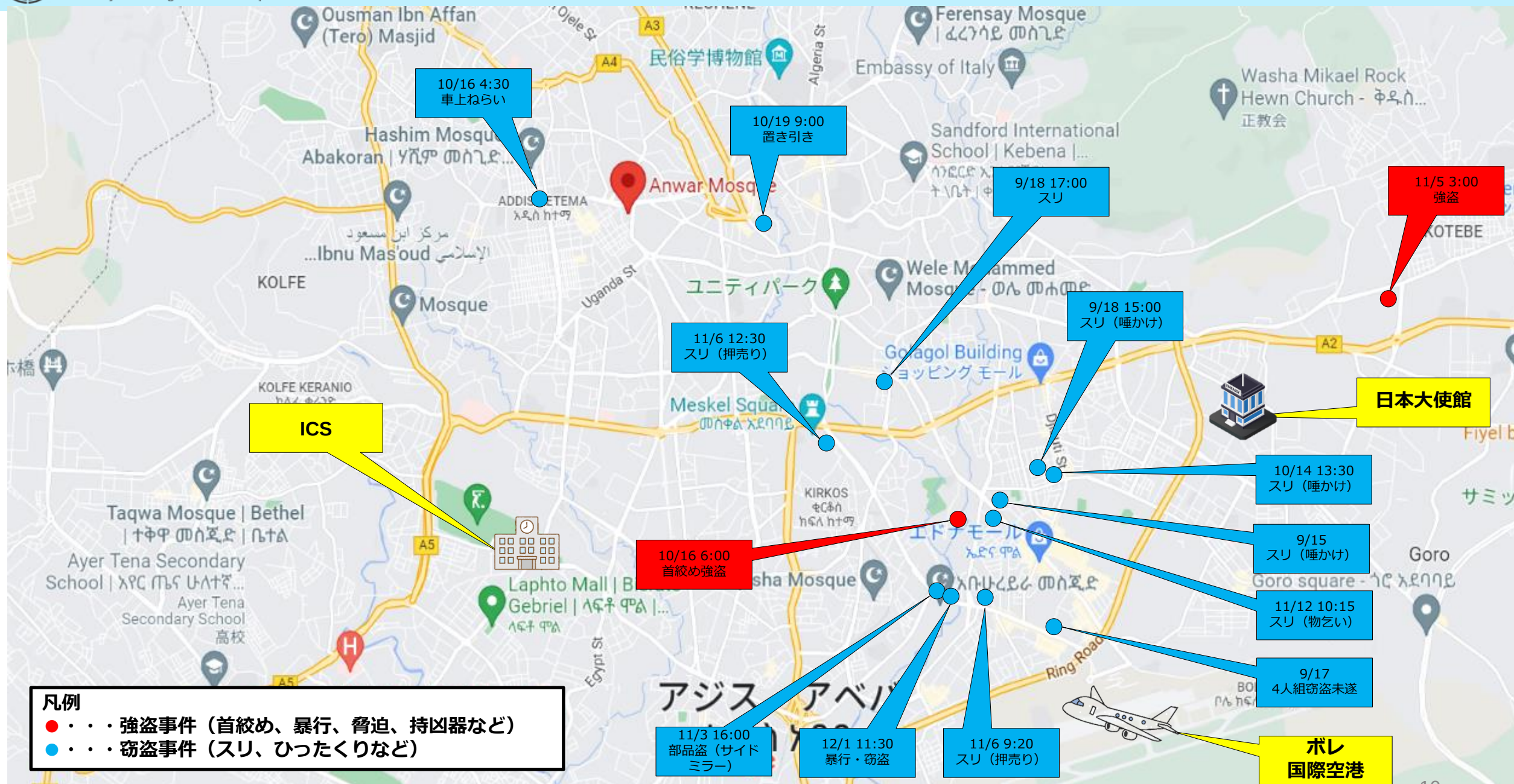
国内治安情勢 1 : 全体



番号	場所	詳細
①	ガンベラ州	ガンベラ市では、殺人、傷害などの発生が増加。南スーダンとの国境地帯では、ムルレ族武装集団による襲撃事件や治安部隊との銃撃戦が頻発。
②	オロミア州 西シェワ県	11/30午前6時30分ころ、Adda Berga郡で、武装集団が鉱山作業員を乗せたバスを襲撃し、従業員 30名以上を拉致 。 17名が行方不明 。
③	オロミア州 東ウエレガ県	12/3、Kiremu郡で、武装集団による襲撃事件が発生。 民間人約30名が死亡、約50名が負傷 。
④	オロミア州 東シェワ県	11/5、Boset郡で、治安部隊と武装集団との銃撃戦が発生し、 双方から7名が死亡 。
⑤	オロミア州 東シェワ県	10/23、連邦政府はFentale郡で 無人機による空爆 を実施。10/25、治安部隊と武装集団との銃撃戦で 少なくとも5名死亡 。
⑥	オロミア州 西ウエレガ県 Mendi	11/9、連邦政府が無人機による空爆を実施し 20名以上が死亡 。11/15、武装集団は 民間人8名を拉致し殺害 。
⑦	オロミア州 西グジ県	9/24、Melka Sodaで治安部隊と武装集団との銃撃戦が発生。 武装集団の20名以上死亡 。

- 外国人対象街頭犯罪の発生状況
- 実際にあつた邦人被害事例と防犯対策

国内治安情勢 2：外国人対象 街頭犯罪発生状況（2022年9月13日～）



実際にあった被害事例詳細 1

- 手口
スリ（唾かけ）
- 被害
スマートフォン 1 台
- 発生日時
10月14日（金）午後1時30分ころ
- 事案の概要



路上を歩いていたところ、男1名が被害者を追い越した後、後ろを振り返り被害者に唾を吐きかけた。唾を吐いた男は、謝りながら被害者の上衣に付着した唾を自分の衣服で拭き始めた。

間もなくして、前方から走行してきた車が被害者の横で停止し、車内の男が被害者に話しかけてきた。被害者が気を取られていると、唾を拭いていた男が、その車に乗り現場から離れた。直後、被害者は上衣のポケットに入れていたスマートフォンの盗難被害に気付いた（ポケットはチャック式で歩行中は閉めていた）。

 ログ
 Lambert
 1900





発生現場見取図（詳細）





発生現場の写真 1



赤矢印：歩行方向
青矢印：車両進行方向



発生現場の写真2（周辺）



青矢印：車両進行方向



発生現場の逆方向を撮影



出典:外務省 海外邦人事件簿

実際にあった被害事例に学ぶ 1

➤ 被害に遭わないために

- ・ **外国人は犯罪の標的**になるという意識を持つ、**徒歩移動は極力避ける**。
- ・ 周囲の警戒を怠らず、屋外でのスマートフォン等の利用を極力避ける。
(**スマートフォンの利用後、周囲の人に収納場所を見られています**)
- ・ 財布、携帯電話などの**貴重品**には**チェーンやストラップ**を付け、**着衣や身体に結着する**など、スリ被害防止対策を講じる。
- ・ ポケットに物を収納する場合は、極力内ポケットを利用する。
- ・ 外ポケットに物を収納する場合は、外から内部の物の形状（凹凸）が分からないような工夫をする。

実際にあった被害事例詳細 2

➤ 手口

スリ（押売り）

➤ 被害

カバン内の現金などの貴重品

➤ 発生日時

11月6日（日）午前9時20分ころ

➤ 事案の概要

単独で路上を歩行中、道端でたむろしている10人くらいの少年の前を通り過ぎる際、「チャイナ、チャイナ」と声を掛けられた。そのうち1人が被害者の腕を掴み、別の1人が商品に乗せたトレイを被害者の体に押し当て、売りつけるようなそぶりをしてきた。

その後、少年らが被害者から離れた後に、身に付けていたウエストバックが開けられ、現金などの貴重品が無くなっていることに気付いた。



ログ
Lamberetivie
ハブ0027





発生現場見取図（詳細）



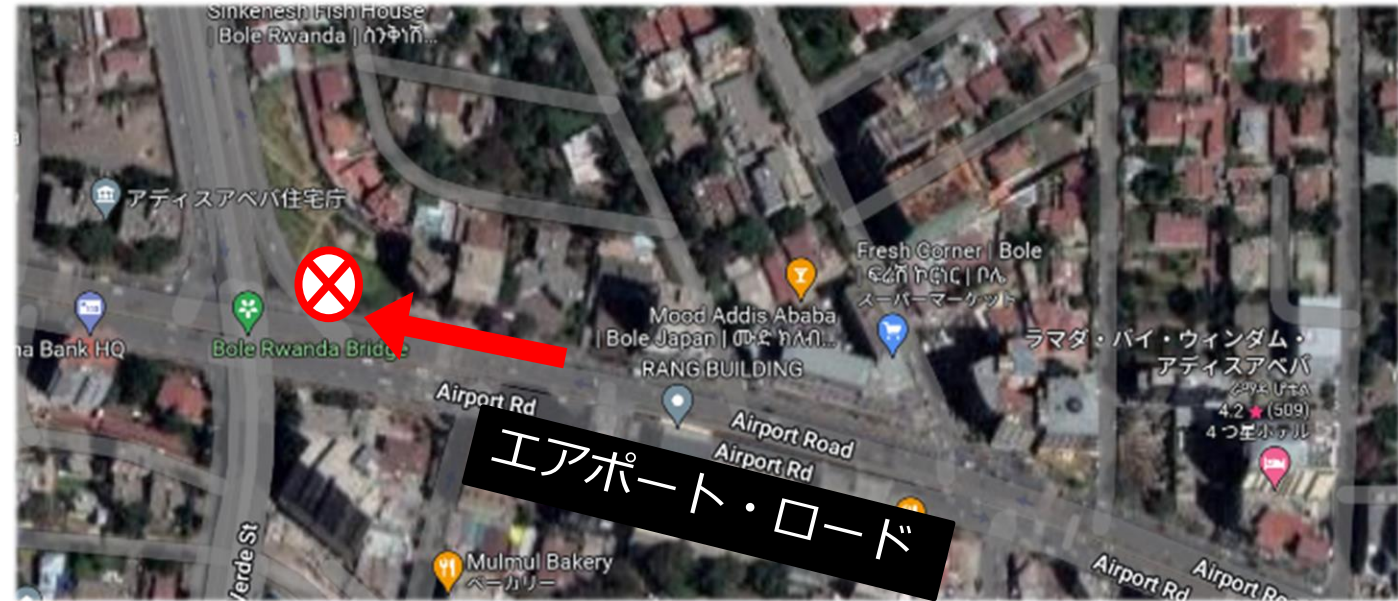


発生現場の写真 1



被害者の進行方向

至 アトラスホテル



至 ボレ空港



被害者の進行方向



発生時の状況（再現 1）



貴重品を入れたバッグを
体の前に持ち歩いている
と

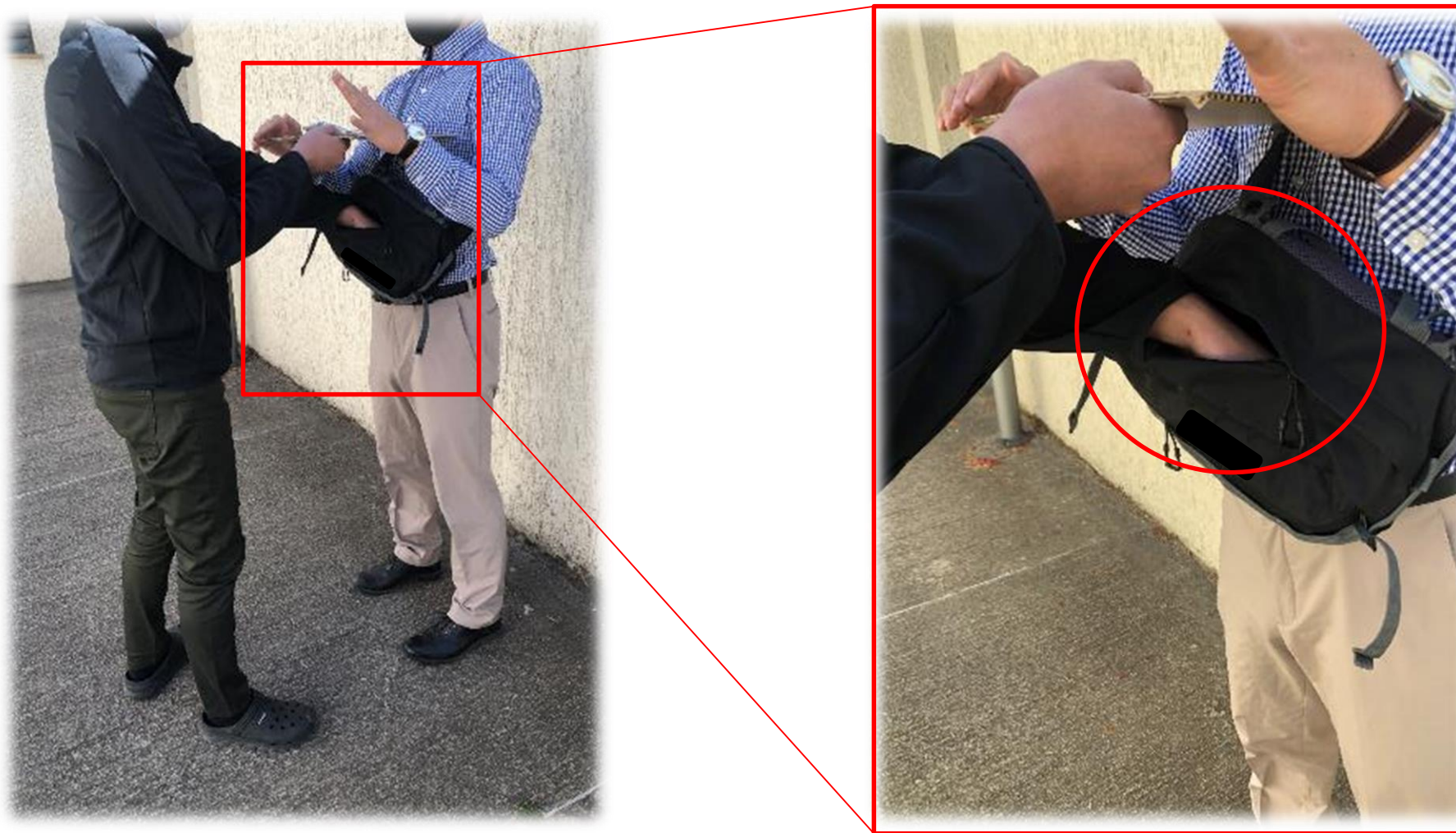


物売りの少年が、商品を体に押し
当て、執拗に売ろうとしてくる



押し当てられた商品で、体の前のバッ
グが見えない

発生時の状況（再現 2）



物を売りつけてくるかのように振る舞い、見えないところで貴重品を抜き取る
※体の前に掛けたバッグ同様、ポケットの財布・スマホも要注意

実際にあった被害事例に学ぶ 2



出典:外務省 海外邦人事件簿

➤ 被害に遭わないために

- ・ 日中・夜間を問わず、**徒歩移動は極力避ける**。
- ・ **周囲を警戒し、異変を感じた場合はすぐにその場を離れる**。
- ・ **カバン**を持ち歩く際は、**ファスナーにダイヤル錠などを掛けておく**。
- ・ よく見られる**スリの手口**（**水をかける、唾を吐きかける、執拗に物を売りつける、衣服をつかんで引っ張る**などして気を引いている隙に、仲間が貴重品を奪う）を知る。
- ・ 銃器や刃物で脅された場合、抵抗することなく指示に従い、**生命の安全を最優先**させる。



ファスナーロックの例



カバン内の貴重品盗難防止に有効
(カバンに付帯してるものある)

ネックストラップの活用



盗難防止、紛失・落下防止にも有効

帰国

出発

海外滞在中

出発前



3. 医療情報

(1) 新型コロナウイルス感染症について

①感染状況

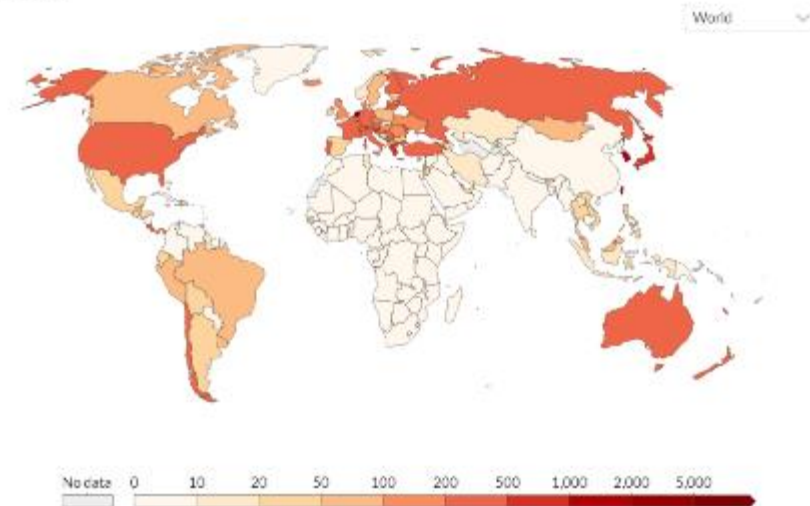
②WHO, CDC, 保健省の推奨

① 感染状況

- ・ これまで5つの流行の波を経験。2021年12月の第4波が最大
- ・ 新規感染者数は第5波以来、減少傾向も下がり止まり中
12月6日までの1週間で263人/週、前の週より44%増加
- ・ 死亡数は、8月の1か月間で4名で、報告の最後は8月30日
- ・ 総数は、感染者494,520人、死者7,572人、致死率1.53%
- ・ ワクチン接種率 初回完了29.8% 追加接種2.2%

Daily new confirmed COVID-19 cases per million people, Sep 6, 2022
7-day rolling average. Due to limited testing, the number of confirmed cases is lower than the true number of infections.

Our World
in Data

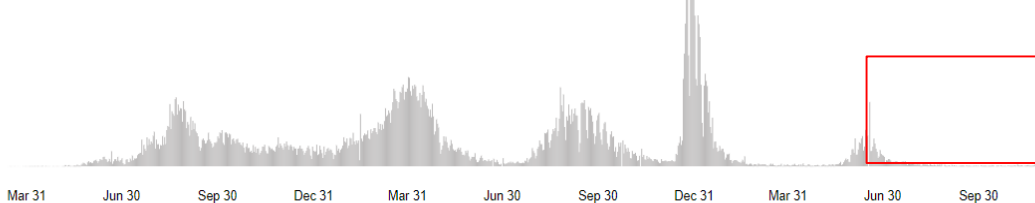


WHOおよびWHOエチオピア情報
2022年12月6日時点

494,520
confirmed cases

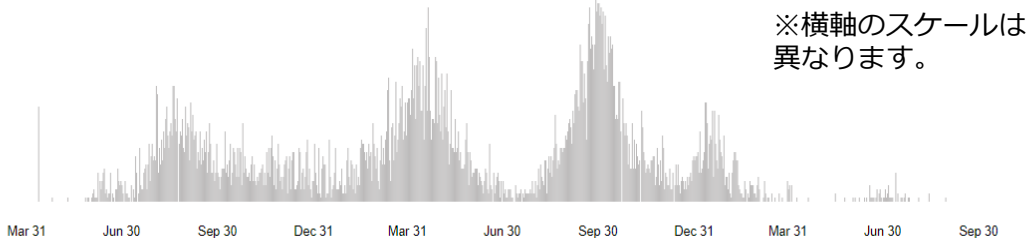
新規感染者数/日

5185日



新規感染者数/日

7,572
deaths



※横軸のスケールは
異なります。



②WHOの推奨 自身での注意

- ✓ 制限の緩和した国では、制限の変更が安全に管理されているかを確認することが重要。

例 1) 大人数を収容する施設：必要な予防措置と安全対策がとられているか。

例 2) 飲食店：プラスチック手袋の使用、社会的距離、食卓の消毒など

✓ 対策

・基本対策

屋内では1m以上の距離を保つ、距離が保てない場合のマスク着用、手指消毒、咳エチケット、有症状時は家にいる。

※CDCは、これに加えて、ワクチンのアップデート（6か月おきの接種）を掲げている。

・職場での対策

自身のCOVID-19への暴露リスクを評価してリスク別の対策を



②WHOの推奨 職場でのCOVID-19対策

1. 暴露リスク評価項目

感染者との接触機会、他者との距離（1m以内）、接触時間



2. リスク分類

低リスク：他者と頻繁に密接に接触することなく仕事ができる。

中リスク：他者と密接（1m以内）かつ頻繁に接触する。販売業、接客業等。

高リスク：感染者との接触が多い。医療従事者等。



※**物理的な距離を取るだけでは、COVID-19 の感染を防ぐことはできない。**

他の公衆衛生対策と組み合わせることが重要。

CDCは上記に加えて、ワクチンのアップデート（6か月おきの接種）を掲げている。

②WHOの推奨

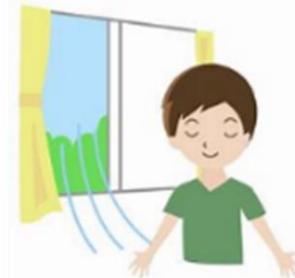
＜低リスク＞ 基本的感染対策でよい

＜中リスク＞ 販売業・接客業等 上記に加えて、

1. 共有して触れる物は最低毎日1日2回、清掃あるいは消毒
2. 1メートルの距離を確保できない場合は、活動を一時停止を検討
3. これらが不可能な場合、換気を増やし、定期的な手指衛生を強化
4. 職場での作業着の着替えと洗濯を整理し、労働者が家に持ち帰る

＜高リスク＞ 医療・保健従事者や濃厚接触者等 さらに上記に加えて、

1. リスクの高い地域、場所での活動を中断する可能性を評価する
2. 定期的な手指衛生を強化
3. 感染が疑わしい人との協働者・同居者は、医療用マスク、手袋、使い捨てガウン、ゴーグルを着用する。
4. 「感染予防と管理の実践」、「個人用保護具の使用」について労働者を訓練する。
5. 既往症のある人、妊娠中の人、または60歳以上の人にリスクの高い仕事を割り当てることは避ける。



3. 医療情報

(2) マラリアについて

① 一般情報

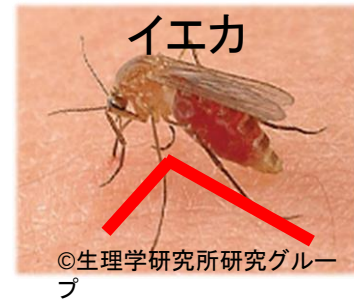
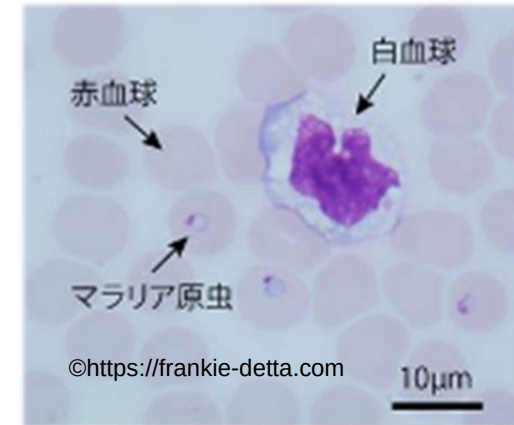
② エチオピアのマラリア

③ 予防と治療

(2) マラリアについて

①一般情報：マラリア

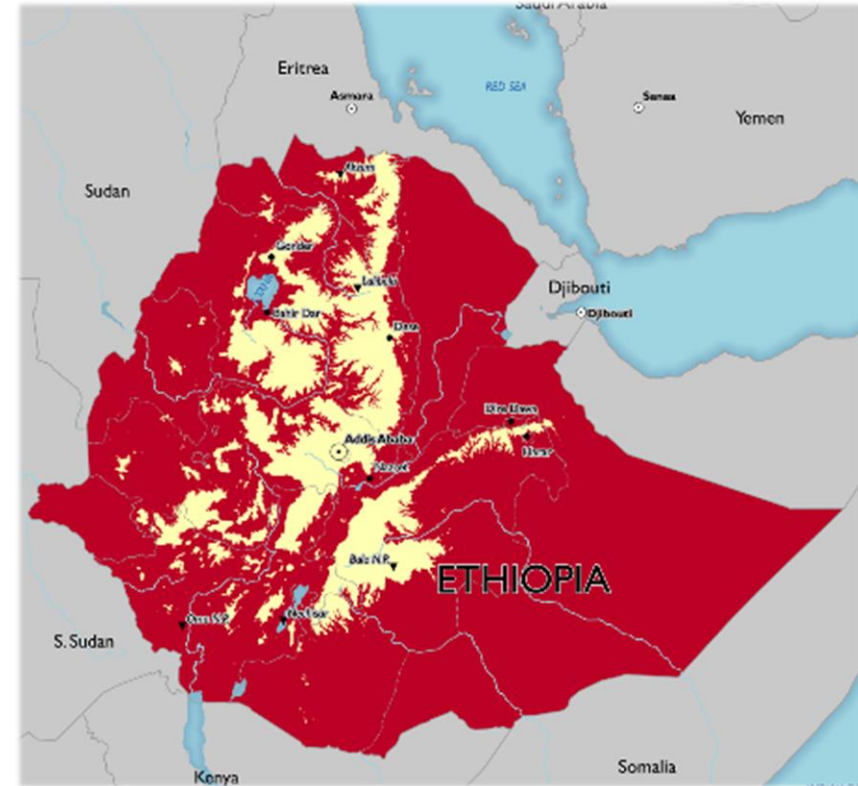
- マラリアはメスの**ハマダラカ**に**刺される**際に、**マラリア原虫**が人の**血液中に入る**ことで感染する。
- 潜伏期は11～21日間。
- 主な**症状**は、**発熱、頭痛、筋肉痛、嘔吐、下痢等**。
重症マラリアでは意識障害やけいれん、腎不全、呼吸不全、黄疸を起こして**命を落とす危険がある**。
- 国土の75%は標高2,000m以下のマラリアの流行地
- 2020 年は、世界で2億4千万件のマラリアが発生、死者数は627,000人と推定。
- マラリア患者の95%、死亡者の96%がアフリカ地域で発生。
- アフリカ地域のマラリアによる死者の約80%が5 歳未満。



(2) マラリアについて

②エチオピアのマラリア

- 2019年マラリアと診断された患者は**147万人**以上、**死者数は3万人以上**。
- 当地のマラリアは重症化の危険性あり。
「**熱帯熱マラリア**」と「**三日熱マラリア**」がある。
クロロキン耐性熱帯マラリアの原因となる
Plasmodium falciparum が症例全体の約65～75%
- 雨期のあと、特に**9月～12月**は蚊が発生する。
- WHO、USAID(PMI)支援のマラリア対策が効果を発揮。
防虫剤塗布の蚊帳4000万張、診断能力の強化。

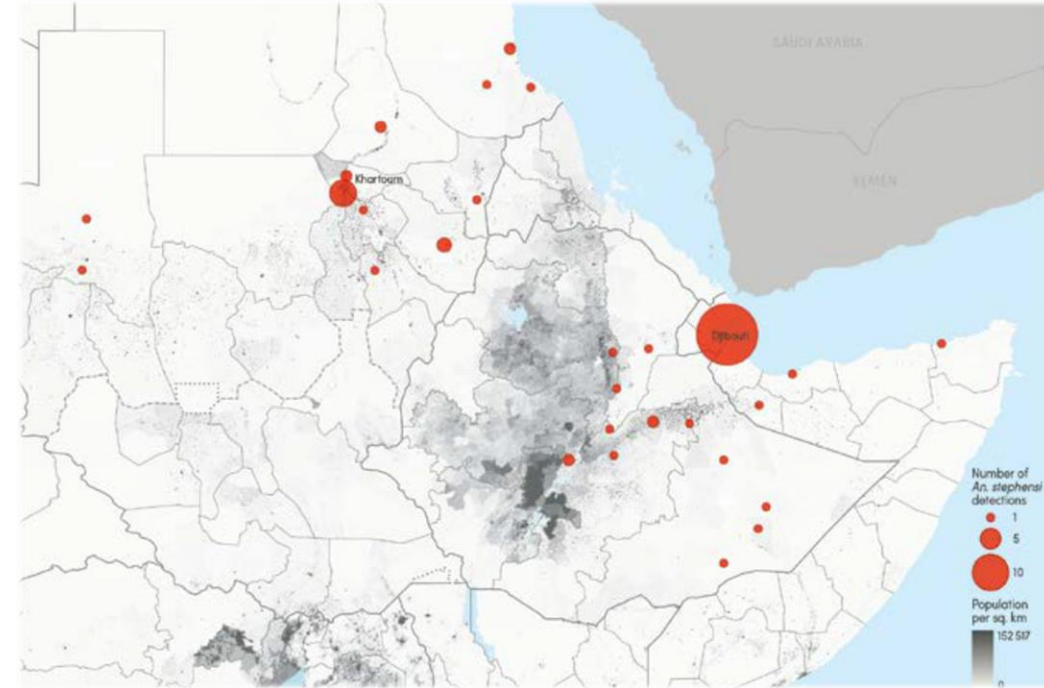


■ 標高2000m以下 マラリア感染高リスク地域
国土の約75%、人口の60%が
感染リスクにさらされている。

(2) マラリアについて

②エチオピアのマラリア：新しい脅威

- 「**熱帯熱マラリア**」と「**三日熱マラリア**」の両方を媒介する**Anopheles Stephensi**(ハマダラカ的一种)の蔓延。
- もともとは南アジアとアラビア半島の一部で生息。
- 過去 10 年間でアフリカに拡大中。
ジブチ (2012年)、**エチオピア**とスーダン (2016年)
ソマリア (2019年)、ナイジェリア (2020年)
- 2019 年 WHOがベクターアラート
撲滅に対する重大な脅威と特定。モニタリング強化。
- 非常に耐性強く駆虫薬や乾燥にも強い。
→**季節にかかわらず都市部でも流行の恐れあり。**



2012年以後にWHO 7/21に報告された、
An.Stephensiの症例分布（赤丸）と人口密度

[WHO エチオピア事務所 ウェブサイト]

[WHO initiative to stop the spread of Anopheles stephensi in Africa]

③ マラリアの感染予防と治療

➤ 蚊に刺されないようにする



流行地ではや個人防護（蚊にさされない）

肌の露出を避ける、服やネットにPermethrin（忌避剤）スプレー

皮膚には30－50%DEET防虫剤（N,N-diethyl-3-methylbenzamide）

蚊が活動時間（明け方や夕暮れ時）の外出を控える



➤ 保健省の対策

コミュニティベースのケアを提供することで10年間（2001年から2011年）で、5歳未満の入院を81%、死亡を73%減少。

国家戦略計画：2025 年までに、マラリアの罹患率と死亡率を 2020年のベースラインから50%削減を目標とする。

(2) マラリアについて

③ マラリアの感染予防と治療

抗マラリア薬の使用 医療機関へのアクセスが悪い場所へは、これらの持参をお勧めする。

● 予防内服

〈第1選択〉

アトバコン・プログアニル合剤 (®マラロン) (250mg/100mg) 1日1錠
流行地に出発前1~2日から旅行後7日まで ※3週以内の短期間に最適

〈第2選択 (多くは出発1~3日前から) 〉

タフェノキン (Tafenoquine) ※18歳以上、長期、段階用法 新規薬剤
ドキシサイクリン (DOXY) ※使用期間長い
メフロキン ※妊婦にも安全

● 治療薬 (内服・成人) ※流行地から戻った後の発熱では、マラリアを疑い検査

アルテメテル・ルメファントリン合剤 (20mg/120mg)	1回4錠	8~12時間毎	2日間
アトバコン・プログアニル合剤 (250mg/100mg)	1回4錠	1日1回	3日間
キニーネ (650mg)	1日650mg	1日3回	3日間



3. 医療状況

(2) 日本・エチオピアの水際措置

日本入国時の検疫措置

English

有効なワクチン接種証明書	入国時の検疫措置			
	出国前検査証明書	質問票	到着時検査	入国後待機
あり	不要	必要	なし	なし
なし	必要			

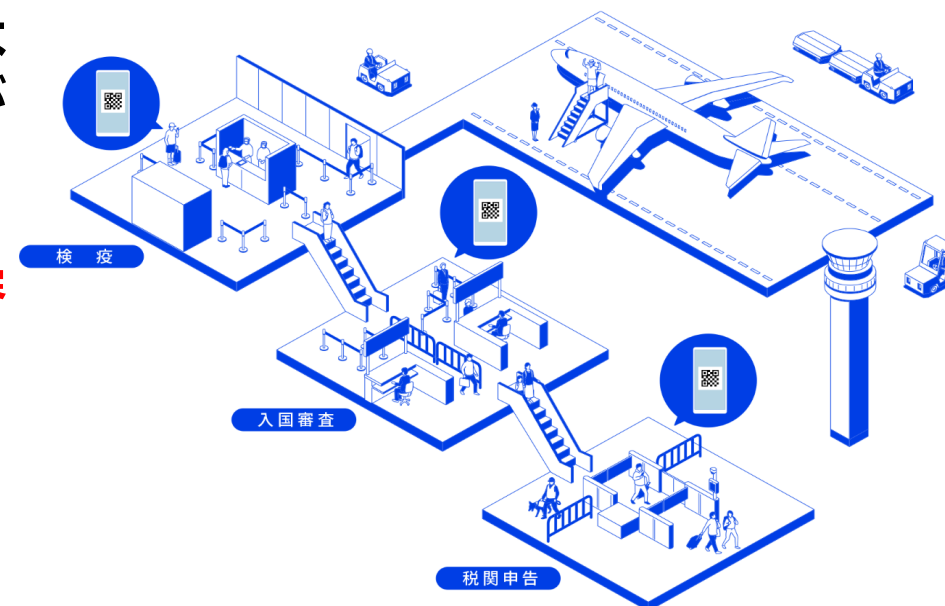
- 全ての国・地域からの帰国者・入国者は、**有効なワクチン接種証明書**を保持していれば、出国前検査が不要。
- **有効なワクチン接種証明書**を保持していない場合は、**出国前72時間以内**に受けた検査の陰性証明書の提示が必要。
- 到着時検査、入国後待機が不要。
- **有効なワクチン接種証明書**を「あり」とできるのは、日本政府が定めたワクチンを接種している場合に限る。詳細は厚生労働省HPなどで確認ください。

ファストトラックは日本入国の際の事前手続。

- 日本入国前、パソコンやスマートフォン端末から「**Visit Japan Web**」オンラインを利用することで、検疫手続きの一部を済ませることが可能。
- さらに検疫以外の「入国審査（日本人、及び、再入国外国人は不要）」、「税関申告」の確認手続きも事前に済ませることが可能。
- ①入国前にアカウントを作成し、②事前に証明書等を登録し審査を受けることで、到着時、空港でQRコード画面を見せるだけで手続きがスムーズに完了。
- 詳細は以下をご確認ください。
<https://www.hco.mhlw.go.jp/>

 **Visit Japan Web**

入国手続オンラインサービス



10月28日以降、エチオピア**入国制限措置は全て解除。**

●新型コロナウイルス関連

過去に求められていた以下の書類が**全て不要**

- ・ 出発前 72 時間以内に実施されたPCR陰性証明書
- ・ 出発前 24 時間以内に実施された抗原迅速検査の陰性証明書
- ・ 90 日以内に新型コロナウイルスから治癒した証明書
- ・ ワクチン接種証明書

●サル痘関連

入国時の「サル痘に関するオンライン事前申告」は**廃止。**



4. 質疑応答



ご静聴ありがとうございました。

お問い合わせはこちら

警備領事班

0911-200-721（高橋）

eiji.takahashi@mofa.go.jp

0911-216-773（吉田）

shoichi.yoshida-2@mofa.go.jp